

IBM Security Directory Server
バージョン 6.3.1.5

レポートニング・ガイド



IBM Security Directory Server
バージョン 6.3.1.5

レポートニング・ガイド



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

注: 本書は、*IBM Security Directory Server* バージョン 6.3.1.5 (製品番号 5724-J39)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典: SC27-6531-00

IBM Security Directory Server

Version 6.3.1.5

Reporting Guide

発行: 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当: トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2014.

目次

本書について	v
資料と用語集へのアクセス	v
アクセシビリティ	vii
技術研修	vii
サポート情報	vii
適切なセキュリティの実施について	viii
IBM Security Directory Server 監査レポ ート	1
監査レポートの前提条件	2
監査レポート構成	3
監査データベースの作成および構成	3
IBM Cognos Reporting コンポーネントのインスト ールおよび構成	4

レポート・パッケージのインポート	5
データ・ソースの作成	6
ログ管理ツールの構成	6
グローバリゼーション	7
言語プリファレンスの設定	8
レポート・モデル・オブジェクト	9
監査名前空間の照会サブジェクト	9
監査名前空間の照会項目	10
カスタム・レポートの作成	15

索引	17
---------------------	-----------

特記事項	19
-----------------------	-----------

本書について

IBM® Security Directory Server (以前は、IBM Tivoli® Directory Server と呼ばれていました) は、以下のオペレーティング・システム用の Lightweight Directory Access Protocol の IBM インプリメンテーションです。

- Microsoft Windows
- AIX®
- Linux (System x®、System z®、System p®、および System i®)
- Solaris
- Hewlett-Packard UNIX (HP-UX) (Itanium)

「*IBM Security Directory Server レポーティング・ガイド*」では、ディレクトリー・サーバーのレポートを生成するためのツールおよびソフトウェアについて説明しています。

資料と用語集へのアクセス

このセクションには、以下の項目が含まれています。

- 『IBM Security Directory Server ライブラリー』内の資料のリスト。
- vi ページの『オンライン資料』へのリンク。
- vii ページの『IBM Terminology Web サイト』へのリンク。

IBM Security Directory Server ライブラリー

IBM Security Directory Server ライブラリーで、以下の資料を参照することができます。

- *IBM Security Directory Server* バージョン 6.3.1.5 製品概要、GA88-7243-01

IBM Security Directory Server 製品に関する情報、現行リリースの新機能、システム要件の情報が記載されています。

- *IBM Security Directory Server* バージョン 6.3.1.5 クイック・スタート・ガイド、GI88-4247-02

IBM Security Directory Server の入門情報が記載されています。製品の簡単な説明、アーキテクチャーの図、製品資料が用意されている Web サイトへのアクセス方法、インストール手順が記載されています。

- *IBM Security Directory Server* バージョン 6.3.1.5 インストールと構成のガイド、SA88-4191-02

IBM Security Directory Server のインストール、構成、アンインストールに関する詳細な情報が記載されています。以前のバージョンの IBM Security Directory Server からのアップグレードに関する情報も記載されています。

- *IBM Security Directory Server* バージョン 6.3.1.5 管理ガイド、SA88-4190-02

Web 管理ツールやコマンド行を使用して管理者タスクを実行する方法が記載されています。

- *IBM Security Directory Server* バージョン 6.3.1.5 レポーティング・ガイド、SC43-1267-00

IBM Security Directory Server のレポートを作成するためのツールおよびソフトウェアについて説明します。

- *IBM Security Directory Server Version 6.3.1.5 Command Reference*、SC27-2753-02

IBM Security Directory Server に用意されているコマンド行ユーティリティーの構文規則と使用方法が記載されています。

- *IBM Security Directory Server Version 6.3.1.5 Server Plug-ins Reference*、SC27-2750-02

サーバーのプラグインの作成に関する情報が記載されています。

- *IBM Security Directory Server Version 6.3.1.5 Programming Reference*、SC27-2754-02

C および Java™ での Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) クライアント・アプリケーションの作成に関する情報が記載されています。

- *IBM Security Directory Server Version 6.3.1.5 Performance Tuning and Capacity Planning Guide*、SC27-2748-02

パフォーマンスを向上させるための Directory Server の調整方法に関する情報が記載されています。さまざまなサイズとさまざまな読み取り/書き込み速度を持つディレクトリーについて、ディスク要件などのハードウェア要件が記載されています。各レベルのディレクトリーと、使用されるディスクとメモリーについて、既知の作業シナリオの説明が記載されています。また、推奨される経験法則も記載されています。

- *IBM Security Directory Server Version 6.3.1.5 Troubleshooting Guide*、GC27-2752-02

発生する可能性のある問題と、IBM ソフトウェア・サポートに連絡する前に実行可能な修正措置に関する情報が記載されています。

- *IBM Security Directory Server Version 6.3.1.5 Error Message Reference*、GC27-2751-02

IBM Security Directory Server に関連するすべての警告メッセージとエラー・メッセージのリストが記載されています。

オンライン資料

IBM は、製品のリリース時と、以下の場所に用意されている資料が更新された場合に、製品資料を公開しています。

IBM Security Directory Server 資料の Web サイト

<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/tivihelp/v2r1/topic/com.ibm.IBMDS.doc/welcome.htm> サイトには、本製品の資料のウェルカム・ページが表示されます。

IBM Security Systems Documentation Central のウェルカム・ページ

IBM Security Systems Documentation Central には、すべての IBM Security Systems 製品資料がアルファベット順のリストで表示されます。また、各製品の特定のバージョンに関する製品資料へのリンクも用意されています。

『Welcome to IBM Security Systems documentation』には、IBM Security Systems の資料の概要、資料へのリンク、一般情報が記載されています。

IBM Publications Center

<http://www-05.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss> サイトには、必要なすべての IBM 資料を検索する場合に役立つカスタマイズされた検索機能が用意されています。

IBM Terminology Web サイト

IBM Terminology Web サイトは、製品ライブラリーの用語を 1 カ所に統合するためのサイトです。Terminology Web サイトには、<http://www.ibm.com/software/globalization/terminology> からアクセスすることができます。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。本製品では、支援技術を使用して、インターフェースの読み上げとナビゲートを行うことができます。マウスの代わりにキーボードを使用して、グラフィカル・ユーザー・インターフェースのすべての機能を操作することもできます。

詳しくは、「インストールと構成のガイド」の付録『アクセシビリティ』を参照してください。

技術研修

技術研修について詳しくは、IBM 研修 Web サイト (<http://www.ibm.com/software/tivoli/education>) を参照してください。

サポート情報

IBM サポートは、コードに関連する問題と、短期間のインストールや使用に関するよくある質問について支援を行っています。IBM ソフトウェア・サポート・サイトには、<http://www.ibm.com/software/support/probsub.html> から直接アクセスすることができます。

「*IBM Security Directory Server Troubleshooting Guide*」には、以下の項目に関する詳細が記載されています。

- IBM サポートに問い合わせる前に収集しておく情報。
- IBM サポートに問い合わせるための各種の方法。
- IBM Support Assistant の使用方法。
- ユーザー自身で問題を切り分けて修正するための手順と問題判別用のリソース。

注: 製品のインフォメーション・センターの「コミュニティおよびサポート」タブに、追加のサポート・リソースがある場合があります。

適切なセキュリティの実施について

IT システム・セキュリティには、企業内外からの不正アクセスの防止、検出、および対応によって、システムや情報を保護することが求められます。不正アクセスにより、情報の改ざん、破壊、悪用を招くおそれがあり、またシステムが損傷したり誤用されたりして、他のシステムへの攻撃に使用されるおそれがあります。完全に安全と見なすことができる IT システムまたは IT 製品は存在せず、また単一の製品、サービス、またはセキュリティ対策が、不適切な使用またはアクセスを防止する上で、完全に有効となることもありません。IBM のシステム、製品およびサービスは、包括的なセキュリティの取り組みの一部となるように設計されており、これらには必ず追加の運用手順が伴います。また、最高の効果を得るために、他のシステム、製品、またはサービスを必要とする場合があります。IBM は、何者かの悪意のある行為または違法行為によって、システム、製品、またはサービスのいずれも影響を受けないこと、またはお客様の企業がそれらの行為によって影響を受けないことを保証するものではありません。

IBM Security Directory Server 監査レポート

IBM Security Directory Server は、監査ログ・ファイルに基づく監査レポートを生成するためのツールおよびソフトウェアを備えています。

すぐに使用できるレポート

すぐに使用できる、以下の静的レポートが提供されます。

構成変更監査レポート

管理者は、ディレクトリー・サーバーの構成変更に関するレポートを生成できます。

このレポートは、以下の入力パラメーターに基づいています。

- 開始日および時刻
- 終了日および時刻

LDAP 認証監査レポート

管理者は、バインド・イベントおよび失敗したバインド・イベントに関するレポートを生成できます。

このレポートは、以下の入力パラメーターに基づいています。

- 開始日および時刻
- 終了日および時刻
- ユーザー・バインド DN
- クライアント IP
- 操作結果

LDAP パスワード・ポリシー違反レポート

管理者は、パスワード・ポリシー違反のために失敗したユーザー・パスワード変更の試行に関するレポートを生成できます。

このレポートは、以下の入力パラメーターに基づいています。

- 開始日および時刻
- 終了日および時刻
- ユーザー・バインド DN

長時間実行検索レポート

管理者は、完了までに指定時間より長い時間を要した検索操作に関するレポートを生成できます。

このレポートは、以下の入力パラメーターに基づいています。

- 開始日および時刻
- 終了日および時刻
- ミリ秒単位の操作の応答時間

ユーザー・アクティビティ監査レポート

管理者は、ユーザー操作に関するレポートを生成できます。

このレポートは、以下の入力パラメーターに基づいています。

- 開始日および時刻
- 終了日および時刻
- ユーザー・バインド DN

カスタム・レポート

Cognos® Workspace Advanced を使用してカスタム監査レポートを生成することもできます。詳しくは、15 ページの『カスタム・レポートの作成』を参照してください

監査レポートの前提条件

IBM Security Directory Server の監査レポートを構成する前に、前提条件が満たされている必要があります。

IBM Security Directory Server は、IBM Cognos Business Intelligence Server バージョン 10.2.1 をサポートします。

以下のソフトウェアをインストールする必要があります：

IBM Cognos Business Intelligence Server バージョン 10.2.1

このソフトウェアをインストールするには、IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1 資料の『インストール』セクションの手順を参照してください。トピック『1 台のコンピューターに対する製品コンポーネントのインストールと設定』で説明しているステップを実行します。

Web サーバー

サポート対象の Web サーバーを参照するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1 資料のホーム・ページで、「**IBM Cognos 10.2.1 Business Intelligence ソフトウェア環境**」リンクをクリックします。
2. 『*IBM Cognos Business Intelligence 10.2 Supported Software Environments*』で、「**10.2.1**」タブをクリックします。
3. 『*IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1*』セクションの「**Requirements by type**」列で「**Software**」リンクをクリックします。
4. 表示された『*Related software for Cognos Business Intelligence 10.2.1*』ページで、『*Web Servers*』セクションを検索します。
5. そこに記載されているサポート対象の Web サーバーのいずれかが、ご使用のシステムにインストールされていることを確認します。

データ・ソース

サポート対象のデータ・ソースを参照するには、以下のステップを実行します。

1. IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1 資料のホーム・ページで、「**IBM Cognos 10.2.1 Business Intelligence ソフトウェア環境**」リンクをクリックします。

- 『*IBM Cognos Business Intelligence 10.2 Supported Software Environments*』で、「**10.2.1**」タブをクリックします。
- 『*IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1*』セクションの「**Requirements by type**」列で「**Software**」リンクをクリックします。
- 表示された『*Related software for Cognos Business Intelligence 10.2.1*』ページで、『*Data Sources*』セクションを探します。そこに記載されているサポート対象のデータ・ソースのいずれかが、ご使用のシステムにインストールされ、構成されていることを確認します。

IBM Security Directory Integrator

ログ管理ツールを使用するには、IBM Security Directory Integrator バージョン 7.1.0.8 以降をインストールする必要があります。インストールの説明については、IBM Security Directory Integrator 資料 の インストールのセクションを参照してください。

監査レポート構成

監査レポートを生成するには、その前にいくつかのコンポーネントをインストールして構成する必要があります。

- 監査データベース
- IBM Cognos Reporting コンポーネント
- レポート・パッケージ
- データ・ソース
- ログ管理ツール

これらのコンポーネントをインストールして構成する手順を、以下のトピックで説明します。

監査データベースの作成および構成

監査データベースは DB2 データベースです。ここでは、ディレクトリー・サーバー・インスタンスの監査ログ・ファイルから取得したすべての監査イベントがダンプされます。監査データベースの作成および構成は、IBM Security Directory Server のインストール時に提供されるスクリプトを使用して行えます。

このタスクについて

IBM Security Directory Server 監査レポートでサポートされるのは DB2 データベースのみです。

手順

1. 監査データベースを作成するシステムに DB2 をインストールします。
2. 以下の場所から **idscfgauditdb** ユーティリティーおよび **sdsAuditDB.sql** ファイルをコピーします。

UNIX システム

```
sds_install_dir/report/idscfgauditdb  
sds_install_dir/report/sdsAuditDB.sql
```

Windows システム

```
sds_install_dir%report%idscfgauditdb.cmd
```

```
sds_install_dir%report%sdsAuditDB.sql
```

3. これら両方のファイルを、監査データベースを作成するシステムと同じディレクトリに配置します。
4. 適切なパラメーターを指定して、**idscfgauditdb** ユーティリティを実行します。IBM Security Directory Server の資料の**idscfgauditdb** ユーティリティを参照してください。

タスクの結果

監査データベース・インスタンス、データベース、およびテーブルが作成されました。

次のタスク

レポート作成コンポーネントをインストールして構成します。

IBM Cognos Reporting コンポーネントのインストールおよび構成

監査データベースを構成し終えたら、IBM Cognos Reporting のコンポーネントをインストールして構成する必要があります。

このタスクについて

データベース構成のプロセス時には、以下のステップを必ず実行してください。

- アプリケーション・サーバーで使用される JVM を指すように JAVA_HOME 環境変数を設定します。
- IBM Cognos Content Store として、エンタープライズ・データベースを使用します。
- 既存のデータ・ソースを削除して新規データ・ソースを作成し、Content Store データベースの作成中に DDL を生成するというオプションを有効にします。データ・ソースの作成については、『データ・ソースの作成』を参照してください。

IBM Cognos Reporting コンポーネントをインストールするための以下の手順はすべて、IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1 資料で説明しています。

手順

1. Cognos Business Intelligence がprerequisitesの指示に従ってインストールされていることを確認してください。
2. IBM Security Directory Server が監査レポートをインストールします。このレポートは、`sds_install_dir/report/SDSAuditReportingPackage.zip` にあります。
3. Cognos Business Intelligence Server をインストールした後で、データベース内での Content Store を作成します。ご使用のオペレーティング・システムに従って、以下のトピックのステップを実行します。
 - a. IBM Cognos Configuration を起動します。
 - b. Content Store データベースを作成します。

4. Web ゲートウェイを構成します。トピック『ゲートウェイのインストールと設定』のステップを実行します。
5. Web サーバーを構成します。トピック『Web サーバーの構成』のステップを実行します。

次のタスク

レポート・パッケージをインポートします。

レポート・パッケージのインポート

バンドルされたレポート・モデルと静的レポートを処理するために、レポート・パッケージをインポートします。

始める前に

レポート・パッケージをインポートする前に、以下の手順を実行します。

- レポート・パッケージ・ファイル `SDSAuditReportingPackage.zip` を、デプロイメント・アーカイブが保存されているディレクトリーにコピーします。デフォルトの場所は `c10_location/deployment` です。4 ページの『IBM Cognos Reporting コンポーネントのインストールおよび構成』を参照してください。
- IBM Cognos Administration で「コンテンツ管理」領域にアクセスするには、管理タスクの保護されている機能に対する権限が必要です。

手順

1. IBM Cognos ゲートウェイ URI にアクセスします。

例:

```
https://hostname:portnumber/ibmcognos/cgi-bin/cognos.cgi
```

オプション

hostname は、IBM Cognos ゲートウェイが構成されている IP アドレスまたはネットワーク・ホスト名です。

portnumber は、IBM Cognos ゲートウェイが構成されているポートです。

2. 「起動」をクリックします。
3. 「IBM Cognos Administration」ウィンドウで「構成」タブをクリックします。
4. 「コンテンツ管理」をクリックします。
5. 履歴をクリアします。
6. ツールバーの「インポートの新規作成」アイコンをクリックします。「インポートの新規作成」ウィザードが開きます。
7. 「配布アーカイブ」リストから `SDSAuditReportingPackage.zip` を選択します。
8. 「次へ」をクリックします。
9. 「名前と説明を指定」フィールドで、説明と画面のヒントを追加します。
10. 「次へ」をクリックします。

11. 「共有フォルダーおよびディレクトリーの内容を選択 (Select the public folders and directory)」フィールドで、表示されるモデルを選択します。
12. 「全般オプションを設定」ページで、外部名前空間へのアクセス権および参照を含めるかどうかと、インポート後のエントリーの所有者を指示します。
13. 「次へ」をクリックします。要約情報が開きます。
14. 要約情報を確認し、「次へ」をクリックします。
15. 「操作を選択」ページで、「保存して 1 回実行」をクリックします。
16. インポート・ファイル操作が送信されたら、「終了」をクリックします。

タスクの結果

これで、レポート・パッケージを使用してレポートを作成し、サンプル・レポートを実行できるようになりました。サンプル・レポートは、IBM Cognos ポータルの「共有フォルダー」タブにあるレポート・モデルから入手できます。

次のタスク

データ・ソースの作成

データ・ソースの作成

IBM Security Directory Server Cognos レポートを操作するには、データ・ソースを作成する必要があります。

このタスクについて

- データ・ソース名には SDSAudit を使用する必要があります。
- ファイル db2cli.dll を DB2 クライアントのインストール・ディレクトリーから *IBM Cognos installation directory/bin* フォルダーにコピーします。
- データ・ソースは監査データベースを指している必要があります。3 ページの『監査データベースの作成および構成』を参照してください。

手順

データ・ソースを作成するには、『IBM Cognos Business Intelligence 10.2.1 資料』にアクセスして、トピック『データ・ソースの作成』のステップを実行します。

次のタスク

監査イベントを監査データベースにダンプするようにログ管理ツールを構成します。

ログ管理ツールの構成

監査イベントを監査データベースにダンプするためにログ管理ツールを構成します。

このタスクについて

IBM Directory Server のオリジナルのログ管理ツールが拡張されました。監査ログから監査イベントを読み取って解析し、監査データベースにダンプできます。監査データベースについて詳しくは、3 ページの『監査データベースの作成および構成』を参照してください。

監査イベントを監査データベースにダンプするようにログ管理ツールを構成するには、`sds_install_dir/idstools/idslogmgmt/idsauditdb.properties` にある監査データベース・プロパティ・ファイルを更新する必要があります。

手順

1. `idsauditdb.properties` ファイルを開きます。
2. **IDS_AUDITDB_JDBCURL** プロパティの値を、監査データベースのホスト名または IP アドレスに設定します。
3. **IDS_AUDITDB_JDBCUSERNAME** プロパティの値を、監査データベースの DB2 インスタンス所有者に設定します。
4. **IDS_AUDITDB_JBCPASSWORD** の値を、インスタンス所有者のパスワードに設定します。
5. ディレクトリー・サーバー・インスタンス所有者の資格情報を使用して、ディレクトリー・サーバー・インスタンスが実行されているシステムにログインします。
6. 環境変数 **IDS_LOGMGMT_ENABLE_AUDIT_COGNOS** を `true` に設定します。
7. 以下のコマンドを使用して、ログ管理ツールを実行します。

```
idslogmgmt -I instance name
```

注: セキュリティー上の理由により、ステップ 7 の後に、`sds_install_dir/idstools/idslogmgmt/idsauditdb.properties` の **IDS_AUDITDB_JBCPASSWORD** の値をクリアすることが推奨されます。

タスクの結果

ログ管理ツールは、ディレクトリー・サーバー・インスタンス監査ログ・ファイルから監査イベントを読み取り、解析して、監査データベースにダンプします。

次のタスク

これで、IBM Cognos から IBM Security Directory Server 監査レポートを作成できるようになりました。

グローバリゼーション

IBM Security Directory Server 監査レポート・パッケージのグローバリゼーション機能を使用して、ユーザー独自の言語でレポートを作成できます。

サポートされる言語

IBM Security Directory Server Cognos レポートは、以下の言語をサポートしています。

- cs = チェコ語
- de = ドイツ語
- en = 英語
- es = スペイン語
- fr = フランス語
- hu = ハンガリー語
- it = イタリア語
- ja = 日本語
- ko = 韓国語
- pl = ポーランド語
- pt_BR = ブラジル系ポルトガル語
- ru = ロシア語
- sk = スロバキア語
- zh_CN = 中国語 (簡体字)
- zh_TW = 中国語 (繁体字)

注: カスタム・レポートは英語でのみサポートされます。

メッセージ

レポートでは、一部の列値に「サポートされていない言語です」というメッセージが表示されることがあります。このメッセージは、レポート・モデルでサポートされていない言語を選択した場合に表示されます。


言語プリファレンスの設定

設定を変更することで、IBM Cognos ワークスペースでのデータの表示方法をカスタマイズできます。製品言語またはコンテンツ言語を設定して、希望する出力形式でレポートを取得できます。

始める前に

IBM Cognos Business Intelligence Server をインストールして構成します。

手順

1. 「IBM Cognos Connection」ウィンドウで、「**個人用領域のオプション**」をクリックします。
2. 「**個人用設定**」をクリックします。
3. 「基本設定」ウィンドウの「**地域オプション**」セクションで、「**ユーザー・インターフェースの言語**」を選択します。プロダクト言語によって、IBM Cognos のユーザー・インターフェースで使用される言語が指定されます。
4. 「基本設定」ウィンドウの「**地域オプション**」セクションで、「**コンテンツ言語**」を選択します。コンテンツ言語によって、レポート内のデータなど、IBM Cognos でコンテンツを表示および生成するために使用される言語が指定されません。

5. 「OK」をクリックします。

タスクの結果

指定した言語で、レポートまたはユーザー・インターフェースを表示できます。

レポート・モデル・オブジェクト

オブジェクトおよびレポート・モデル名、名前空間、およびエンティティに関する情報を参照して、レポート・モデルを使用したカスタム監査レポートを作成します。

照会項目

レポート内のモデルの最少部分。これは、製品が導入された日付など、物事の単一の特性を表します。

照会対象またはディメンションには、照会項目が含まれます。例えば、テーブル全体を参照する照会対象は、そのテーブル内の各列を表す照会項目を含みます。

照会項目は、レポートを作成するのに最も重要なオブジェクトです。ユーザーは照会項目の照会項目プロパティを使用して、レポートを構築します。

照会対象

固有の関係を有する一連の照会項目。ほとんどの場合、照会対象はテーブルのような働きをします。どの列に対して照会が実行された場合でも、照会対象は同じ行のセットを生成します。

パッケージ

プロジェクトに定義されたディメンション、照会対象、およびその他のオブジェクトのサブセット。パッケージは、IBM Cognos サーバーに対して公開されます。これは、レポート、分析、および随時実行可能な照会を作成します。

名前空間

名前空間は、照会項目、ディメンション、照会対象、その他のオブジェクトを一意に識別します。複数の異なるデータベースは別個の名前空間にインポートして、名前の重複を避けてください。

注: Security Directory Server 監査レポート・モデルの名前空間は「監査」と名付けられます。

監査名前空間の照会サブジェクト

Security Directory Server 監査レポート・モデルの名前空間は「監査」と名付けられます。監査名前空間内の照会サブジェクトを以下にリストします。

LDAP 監査

IBM Security Directory Server インスタンスの監査イベントでのすべてのヘッダーと共通属性の組み合わせを表します。例: 監査バージョン、タイムスタンプ、バインド DN、クライアント IP とポート、操作結果、LDAP クライアント制御と重大度、操作応答時間など。

監査追加

LDAP 追加イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: 項目、属性。

監査バインド

LDAP バインド・イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: 認証の選択肢、認証メカニズムなど。

監査比較

LDAP 比較イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: 項目、属性。

監査削除

LDAP 削除イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: 項目。

監査拡張操作

LDAP 拡張操作イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: OID。

監査 DN 変更

LDAP DN 変更イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: 項目、NewRDN、DeleteOldRDN、NewSuperior。

監査登録イベント通知

LDAP イベント登録通知イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: イベント ID、ベース、スコープ、操作タイプ。

監査検索

LDAP 検索イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: ベース、スコープ、フィルター、derefAliases、typesOnly、属性、entriesReturned。

監査登録抹消イベント通知

LDAP イベント登録抹消通知イベントにのみ適用されるイベント属性を表します。例: ID。

監査名前空間の照会項目

監査名前空間内の照会項目を以下にリストします。

LDAP 監査

LDAP 監査照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

監査バージョン

監査バージョンを表します。監査バージョンが 3 の場合、「監査バージョン」は AuditV3 となります。

監査タイム・スタンプ

イベントが監査された時のタイム・スタンプを表します。これは、監査ログのヘッダー部分にあるタイム・スタンプに対応しています。

イベント・タイプ

V3 Bind、V3 Modify などの操作タイプを表します。これは、監査ヘッダーにある操作タイプに対応しています。

バインド DN

バインド DN を表します。V3 の非認証要求や匿名要求の場合、このフィールドは <*CN=NULLDN*> になります。これは、監査ヘッダーのバインド DN に対応しています。

クライアント IP

監査ヘッダーからのクライアント IP を表します。

クライアント・ポート

監査ヘッダーからのクライアント・ポートを表します。

接続 ID

LDAP 接続 ID を表します。これは、監査ヘッダーからの connectionID 属性に対応しています。

受信したタイム・スタンプ

要求が受信されたときのタイム・スタンプを表します。これは、監査ヘッダーからの received 属性に対応しています。

操作結果

LDAP 操作の結果またはステータスを示します。これは、監査ヘッダーからの結果ストリングに対応しています。

固有 ID

コントロールに保管される固有の要求 ID です。クライアント IP は、コントロールに保管されるクライアントの元の IP です。critical が true の場合は、コントロールの criticality も true に設定され、critical が false の場合は、コントロールの criticality も false に設定されます。

監査制御クライアント IP

監査制御で送信されるクライアント IP を表します。これは、監査ログからの ClientIP 属性に対応しています。

要求 ID

制御が監査制御であり、サーバー監査で追加情報を監査するように構成されている場合に、追加情報として送信される要求 ID を表します。これは、監査ログからの RequestID 属性に対応しています。

正規化 グループ許可制御で送信される追加情報からの Normalized 属性を表します。値は TRUE または FALSE です。

制御値

許可グループ

サーバー監査でグループを監査するように構成されている場合に、グループ許可制御で送信されるグループ名を表します。これは、監査ログからの Group 属性に対応しています。

LDAP 制御および重大度

要求で送信される、LDAP 制御とその重大度を表すストリングを表します。これは、監査ログからの、control 属性と criticality 属性の組み合わせに対応しています。

プロキシ DN

制御がプロキシ許可制御の場合に、プロキシ DN を表します。これは、監査ログからの ProxyDN 属性に対応しています。

操作応答時間

要求を受け取った時刻とその応答を送信した時刻の時差をミリ秒で表します。これは、監査ログからの operationResponseTime 属性に対応しています。

作業キューで費やされる時間

操作の実行が開始されるまでにワーカー・キュー内で要求によって費やされた時間をミリ秒で表します。これは、監査ログからの timeOnWorkQ 属性に対応しています。

RDBM ロック待ち時間

操作実行時に RDBM キャッシュに対するロックの獲得に費やされた時間をミリ秒で表します。これは、監査ログからの rdbmLockWaitTime 属性に対応しています。

クライアントの入出力時間

完全な操作要求の受け取りおよび完全な操作応答の戻しに費やされた時間をミリ秒で表します。これは、監査ログからの clientIOTime 属性に対応しています。

監査追加

監査追加照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

項目の追加

追加された項目の DN を表します。これは、LDAP 追加イベントからの entry 属性に対応しています。

属性の追加

追加された項目の属性を表します。これは、LDAP 追加イベントからの attributes 属性に対応しています。

監査バインド

監査バインド照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

ユーザー名

バインドを実行した項目の DN を表します。これは、バインド・イベントからの name 属性に対応しています。

認証の選択肢

LDAP バインド・イベントからの authenticationChoice 属性に対応しています。有効な値は、unknown、simple、krbv42LDAP、krbv42DSA、または sasl です。

認証メカニズム

LDAP バインド・イベントからの authenticationMechanism 属性に対応しています。

マップされた名

LDAP バインド・イベントからの mappedname 属性に対応しています。

Authz ID

LDAP バインド・イベントからの authzId 属性に対応しています。

管理者アカウント状況

LDAP バインド・イベントからの Admin Acct Status 属性に対応しています。有効な値は、Not Locked、Locked、または Lock Cleared です。

パススルー・バインド DN

IBM Security Directory Server がパススルー・ディレクトリーにバインドするために使用するバインド DN を表します。これは、監査ログからの passthroughBindDN 属性に対応しています。

パススルー・サーバー

パススルー・ディレクトリーのホスト名または IP アドレスとポートを表します。これは、監査ログからの passthroughServer 属性に対応しています。

パススルー・バインド RC

パススルー・ディレクトリーからの戻りコードを表します。これは、監査ログからの passthroughBindRC 属性に対応しています。

監査比較

監査比較照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

項目の比較

比較操作が実行された項目の DN を表します。これは、LDAP 比較イベントからの entry 属性に対応しています。

属性の比較

比較操作が実行された属性の名前を表します。これは、LDAP 比較イベントからの attribute 属性に対応しています。

監査削除

監査削除照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

項目の削除

削除された項目の DN を表します。これは、LDAP 削除イベントからの entry 属性に対応しています。

監査拡張操作

監査拡張操作照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

OID 実行された拡張操作の OID を表します。これは、LDAP 拡張イベントからの OID 属性に対応しています。

監査 DN 変更

監査 DN 変更照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

DN 変更項目

DN 変更操作が実行された項目の DN を表します。これは、LDAP DN 変更イベントからの entry 属性に対応しています。

新規 RDN

DN 変更操作が実行された LDAP 項目の新規 RDN 属性を表します。これは、LDAP DN 変更イベントからの newrdn 属性に対応しています。

古い RDN の削除

古い RDN 属性が LDAP 項目から削除されたかどうかを示します。これは、LDAP DN 変更イベントからの deleteoldrdn 属性に対応しています。

新規上位

DN 変更操作が実行された LDAP 項目の新しい親の DN を表します。これは、LDAP DN 変更イベントからの newSuperior 属性に対応しています。

監査変更

監査変更照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

変更オブジェクト

変更操作が実行された項目の DN を表します。これは、LDAP 変更イベントからの object 属性に対応しています。

変更アクションおよび属性

変更操作に関わった属性の名前と変更アクションの組み合わせのリストを示します。

監査登録イベント通知

監査登録イベント通知照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

イベント ID

登録されたイベントの ID を表します。これは、監査ログからの eventID 属性に対応しています。

登録イベント通知ベース

イベントを登録するサブツリーの DN を表します。これは、監査ログからの base 属性に対応しています。

登録イベント通知スコープ

操作のスコープを表します。これは、監査ログからの scope 属性に対応しています。

操作タイプ

イベント登録が行われた操作のタイプを表します。これは、監査ログからの type 属性に対応しています。

監査検索

監査検索照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

検索ベース

LDAP 検索操作で使用される検索ベースを表します。これは、LDAP 検索イベントからの base 属性に対応しています。

検索範囲

LDAP 検索操作で使用される検索スコープを表します。これは、LDAP 検索イベントからの scope 属性に対応しています。

別名の参照解除

サーバーが別名を参照解除するかどうかを示します。これは、LDAP 検索イベントからの `derefAliases` 属性に対応しています。

フィルター

検索操作で使用される検索フィルターを表します。これは、LDAP 検索イベントからの `filter` 属性に対応しています。

特定タイプのみ

検索操作で属性のみを要求するかどうかを示します。これは、LDAP 検索イベントからの `typesOnly` 属性に対応しています。

検索属性

検索要求で要求された属性のリストを表します。これは、LDAP 検索イベントからの `attributes` 属性に対応しています。

返された項目

検索操作で返された項目の数を表します。これは、LDAP 検索イベントからの `numberOfEntriesReturned` 属性に対応しています。

監査登録抹消イベント通知

監査登録抹消イベント通知照会サブジェクトには以下の照会項目があります。

ID 登録抹消されなかったイベントの ID を表します。これは、監査ログからの ID 属性に対応しています。

カスタム・レポートの作成

IBM Cognos Workspace Advanced を使用して、カスタム監査レポートを作成できます。

手順

1. IBM Cognos Workspace で、LDAP 監査照会サブジェクトから共通照会項目を挿入します。
2. イベント・タイプに基づいて、イベント固有の照会サブジェクトから追加の照会項目を挿入します。例えば、LDAP 比較操作に関するカスタム監査レポートを作成するには、以下の照会項目を挿入できます。

- 監査バージョン
- 監査タイム・スタンプ
- イベント・タイプ
- バインド DN
- クライアント IP
- 操作応答時間

こうすることで、監査データベース内にあるすべての監査イベントが表示されます。

3. カスタム・フィルターを追加します。例えば、イベント・タイプに関するカスタム・フィルターを追加して、比較イベントのみを含めるようにできます。そうすることで、LDAP 比較操作に関連するイベントのみが表示されます。

4. イベント固有の照会サブジェクトから、必要な照会項目をさらに挿入します。例えば、監査比較などです。
5. 必要に応じた形式でレポートを保存します。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

- アクセシビリティ vii
- インストール
 - 監査レポート作成コンポーネント 4
 - レポート作成コンポーネント 4
- インポート
 - 監査レポート・パッケージ 5
 - レポート・パッケージ 5
- オンライン
 - 資料 v
 - 用語集 v

[カ行]

- カスタム・レポート
 - 作成 15
- 監査
 - レポート 1
 - インストール 4
 - インポート 5
 - カスタムの作成 15
 - グローバリゼーション 7
 - 言語 7, 8
 - 構成 3, 4, 7
 - 照会項目 10
 - 照会対象 9
 - 前提条件 2
 - データ・ソースの作成 6
 - メッセージ 7
 - モデル・オブジェクト 9, 10
 - ログ管理ツール 7
 - ログ 1
- 監査データベース
 - 構成 3
 - 作成 3
- 研修 vii
- 構成
 - 監査データベース 3
 - 監査レポート作成コンポーネント 4
 - レポート作成コンポーネント 4

[サ行]

- 作成
 - 監査データベース 3
 - 監査レポート作成データ・ソース 6
 - 監査レポート用のデータ・ソース 6
- 照会項目
 - 監査レポート 10
- 照会対象
 - 監査レポート 9
- 資料
 - アクセス、オンライン v
 - 本製品用のリスト v

[タ行]

- データ・ソース
 - 作成 6
- トラブルシューティング vii

[マ行]

- 問題判別 vii

[ヤ行]

- 用語集 v

[ラ行]

- レポート
 - カスタムの作成 15
 - 監査 7, 8, 9, 10, 15
 - グローバリゼーション 7
 - 言語 7, 8
 - 構成 3
 - ログ管理ツール 7
 - 照会項目 10
 - 照会対象 9
 - メッセージ 7
 - モデル・オブジェクト 9, 10
- レポート作成コンポーネント
 - インストール 4
 - 構成 4
- レポート・パッケージ
 - インポート 5
- ログ管理ツール
 - 監査レポート用の構成 7

I

- IBM
 - ソフトウェア・サポート vii
 - Support Assistant vii

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
2Z4A/101
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラット

フォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 The Minister for the Cabinet Office の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。



Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine は、Sony Computer Entertainment, Inc.の米国およびその他の国における商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO、LTO ロゴ、Ultrium、および Ultrium ロゴは、HP、IBM Corp. および Quantum の米国およびその他の国における商標です。



Printed in Japan

SC43-1267-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21